

基地はいらない！ 辺野古新基地計画は断念を！

菅首相はあらためて沖縄切捨てを宣言

1月20日、菅首相は外交演説を行い、「日米同盟は日本外交の基軸」と叫びつつ、沖縄県名護市辺野古の新基地建設をなんとしても実現しようとする方針を示しました。繰り返し発信されてきた沖縄県民の民意を踏みにじるものです。菅首相によるあらためての沖縄切捨て宣言であり許すことができません。この方針はまた、この時代に新基地を米軍に提供すること、あの美しい海に米軍基地を作ることに疑問を感じている多くの国民の意見を無視するものです。普天間移設について「最低でも県外」と言って政権交代を成し遂げたはずの民主党政権の国民に対する明らかな背信行為です。

さらに、演説の中で首相は「日本国内の米軍基地は必要」と表明しました。「米軍基地の整理・縮小・返還」を掲げて運動を続けている自治体やわたしたち市民の前に立ちはだかろうとしています。

わたしたちは、このような菅政権の姿勢に断固批判の声を上げていきたいと思います。基地県神奈川からも、基地被害の告発を続け、戦後65年いまだに残る米軍基地の返還を求めて大きな声を上げていきましょう！ほんとうに「黙っていたら100年先も基地の街」です。

東アジアの軍事的緊張を煽る政策にNo！

新防衛大綱による戦争挑発的で危険な「動的抑止力」導入や、北朝鮮に対する大規模でほとんど臨戦態勢の日米合同軍事演習、日韓軍事同盟の追求などが進められています。わたしたちは、東アジアの軍事的緊張を煽る政策に断固反対します。緊張を煽るのではなく、緊張緩和のための外交政策、平和憲法の平和主義の精神に基づく軍縮と平和外交の追求を求めます。共に声を上げていきましょう。

(2011. 1. 23)

ダブルスタンダード



イラスト by 壺花花

キャンプ座間

自衛隊宿舎建設で、基地は固定化される！

一部返還地への病院誘致の裏にあるもの

座間市では、キャンプ座間の一部返還予定地(5.4ha)の跡地利用について議論がされています。病院を誘致するという方向性で、返還地を国から座間市が借り受け、誘致する病院に又貸しするということが検討されています。遠藤座間市長は「市の負担軽減を国も考えてくれた」と歓迎の意を表明していますが、この背後に大きな問題が隠れています。

この構想は、同じ跡地に、新たにキャンプ座間にやってくると計画されている陸上自衛隊の中央即応集団司令部の家族宿舎の建設を前提にした話であり、そのかぎりでは国は座間市に病院誘致で協力姿勢を示しているものです。

陸自中央即応集団司令部の移駐反対！

これでは、「基地の整理・縮小・返還」の市是をないがしろにするもので、真の意味での市民の利益と言えるかどうか大変疑問です。自衛隊宿舎の建設は、基地の恒久化解消に逆行するものであり反対の声を上げていかなければなりません。陸自中央即応集団司令部の移駐、基地機能の強化に反対の声を上げていきましょう！（2011. 1. 23）

相模総合補給廠

汚染除去・安全対策は、米軍の責任で！

相模総合補給廠の「共同使用」とされる予定区域の安全対策負担を誰がするのかということが議論となっています。相模原市は早期の共同使用実現をめざしているのですが、同補給廠では過去に有害物質であるポリ塩化ビフェニール（PCB）廃棄物が搬入されてきた歴史があり、カドミウム汚染の疑いもあります。地下を掘り起こせば多数の焼夷弾（不発弾）が発見されています。大変危険な場所なのです。

そもそもなぜ基地内がこのように汚染されたり不発弾が埋設されたまま放置されているのでしょうか？これは、米軍に基地返還にあたり原状回復義務がないという日米地位協定の内容に根ざしています。汚染除去・安全対策の負担を相模原市民に押し付けさせず、国と米軍に求めていきましょう！（2011. 1. 23）



地図：神奈川新聞より